

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・当地では台風や雨による被害が全くなかったこともあり、日本人観光客の入込が順調に伸びている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物の動きが段々と活発化している。ただし、天候不順の影響もあり、例年と比べると鈍化している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・大手得意先の経営者から、最近は毎月、売上が前年を上回っているとの話を聞いている。数店を経営している会社であり、全店の売上が良いということから、景気はやや良くなっている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・8月は気温の低い日が続いたことで夏物衣料が苦戦したが、道内客や外国人観光客の来店が順調に伸び、全体の来客数を押し上げた。また、秋物衣料の動きが例年よりも早く、客単価の上昇に寄与している。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・前年の悪天候と異常な低温と比べれば、今年の天候は良かったことから、行楽需要、観光需要が盛り上がった。また、有名バンドのコンサートがあったことで、ホテル、タクシーなどの観光関連も好調だった。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・夏が終わり、秋物の展開に向かうなか、先物の買上が多く、好調に推移した。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・お盆明けから来客数や販売量が前年よりも上向いてきている。3か月前より良くなってきている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中国を始め、東南アジアからの団体旅行が好調である。地元で開催されたスポーツイベントもプラスに作用した。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・観光繁忙期を迎えて人の動きが活発になっている。また、7月には2年半ぶりとなる海外航空会社のチャーター便が就航しており、新しい需要が生じていることもうかがえる。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・競合他社への流出は相変わらず多いものの、想定よりも新規加入が多く、解約も少なかった。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・8月27日時点の利用乗降客数は前年比約109%となっている。当業種は天候に大きく左右される業態であり、8月は悪天候の日も多かったが、個人観光客が目立つなど、まずまずの入込がみられた。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が減少気味である。今年は天候が不順なため、天候に左右される日が多い。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、淡々と買物をしており、可も不可もない状況にある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・8月に入り、天候不順の影響で客足に見込みほどの伸びがみられなかった。特に、当市最大の夏祭りの期間中は、3日間の日程のうち2日間が降雨となり、多くのイベントを中止せざるを得なかったことで来街者数が減少し、例年と比較してやや落ち込みがみられた。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・天候がすっきりしないため、客の購買意欲に影響がみられ、苦戦している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・夏の観光シーズンのピークを過ぎたため、景気はやや落ち着きをみせ始めている。ただ、国内客については、月末のスポーツイベント目的の客による購入がみられたことで売上がかなり増えたほか、外国人観光客もLCCの増加により微減で推移しているため、例年ほどの落ち込みは生じていない。
		百貨店（担当者）	単価の動き	・来客数は前年と比べて安定しているものの、売上のトレンドとしては若干のマイナス基調である。客単価が低下していることが要因であり、主力のお中元ギフトも客単価が下がっている。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・買上客数は緩やかな減少を続けている一方で、買上単価の変動が激しく、判断が悩ましい。
		百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・慢性的に来客数が減少している。お祭りの時期に降雨があったことも影響しているが、6月からの長雨による天候不順の影響で、天候が回復した際の揺り戻しも少ない。ただし、観光客は外国人観光客も含めて増加傾向にある。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・天候の影響もあるが、お盆期間でも不必要な物は買わない傾向がみられたことから、客の節約志向は依然として強いままである。

スーパー（役員）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数の減少を客単価の上昇でカバーする状況が続いている。ただ、客単価の上昇については、平成30年7月豪雨などの影響で青果物の相場が高いことも影響している。また、お盆の時期は年間を通じて大きな商戦となるが、天候面で前年との大きな違いがみられなかったにもかかわらず来客数が減少していることから、高齢化や少子化などの影響で帰省客の動向にも大きな変化が生じていることがうかがえる。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数が若干の回復傾向にとどまっている一方で、客単価が上昇していることから、売上は前年を維持できている。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・観光客が増えているが、お盆時期の天候不順の影響で見込みほど売上が伸びなかった。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・8月の来客数、売上は前年をやや下回った。お盆前の夏物家電の需要も前年よりも少なかった。
乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・他社も含めて全体的に受注量の減少が続いている。他地区と比較しても落ち込みが目立っており、全地区の中で最下位の状況が続いている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数、販売量が増えてこない。今後期待が持てるような材料も見当たらない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・極端に販売量が下がることもないが、新型車が出た割には販売量に伸びがみられなかった。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車種の発売が相次いでいる効果もあり、9月の決算期に向けて最高の波が生じており、3か月前と同様、好調に推移している。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定しており、余り変化がみられない。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・8月下旬の週末2日間に大きなイベントがあり、当地以外からの参加者があふれていた。それを期待して企画を練り、準備を進めたことで、それなりの来客数はあった。しかし、それ以外の日の売上は天候不順の影響もあり、前年を少しずつ下回った。月全体の売上は前年を8%下回り、平成28年3月の北海道新幹線開業前の水準に落ち込んだ。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・昼食の売上は前年を上回ったが、夕食の売上が伸び悩み、全体では前年並みとなった。夕食は気温の高かった前半の売上が悪かったが、気温が落ち着いた後半からは少し増えた。今年は契約産地や農家の収穫が不安定であったことから、材料費が若干かさんだ。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・各種イベント、大会の効果で宿泊施設の稼働率が好調を維持している。
タクシー運転手	販売量の動き	・8月は雨の日が多かったことから、例年よりもタクシーの利用が多く、タクシー1台当たりの売上は前年を8%上回った。ただし、タクシー適正化・活性化法により前年から10%の減車を行っていることに加えて、乗務員不足もあり、タクシーの稼働は前年よりも少なく、会社全体の売上は前年を若干下回った。
タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関係の予約がやや良かった分、観光関係の利用がマイナスとなった。
タクシー運転手	来客数の動き	・8月は夏季の様々なイベントなどの影響もあり、3か月前と比べて、稼働率が0.3%程度良かった。ただ、あくまでも短期的な動きであり、環境の厳しさに変化はない。秋に入ると観光客数も落ち込んでくるため、先行きの予想も付かない状況にある。
通信会社（社員）	来客数の動き	・お盆などで集客アップが見込まれたが、天候不順の影響もあり、期待したほどの伸びはみられなかった。
美容室（経営者）	販売量の動き	・例年、お盆前が忙しい時期となるが、今年の売上は前年を25%下回った。一方で8月後半が忙しく、売上もばん回して、月全体では例年と同じような売上となった。
美容室（経営者）	販売量の動き	・8月は売上が減少したが、天候不順などの影響が大きいとみられる。ここ3か月、売上は前年比マイナス5%程度で推移しており、景気の変動はそれほど感じられない。
美容室（経営者）	来客数の動き	・繁忙期にもかかわらず今一つ売上が伸びてこなかった。
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客は以前よりも減少傾向にある。一方で、来訪客の商談内容は比較的濃く、成約率はそこそこ高い。

	百貨店（売場主任）	単価の動き	・ 8月の客単価は前年比101.6%となっており、5～7月の前年比104.4%と比べて低下している。	
	スーパー（店長）	それ以外	・ 天候不順などの影響で売れるべき季節商材が苦戦している。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・ お盆期間中であるにもかかわらず、8月も客の来店動向が非常に悪く、この状況が今後も続くことを懸念している。	
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ 今夏の北海道は低温、多雨の日が多く、涼味商材の動きが良くなかった。夏休みの行楽商材の動きも鈍く、来客数も伸び悩んでいる。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ 夏の繁忙期にもかかわらず来客数が減る一方である。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ 来客数の伸び率が悪化している。前年と比べて天候が悪いため、夏型商材の動きも悪く、売上、利益共減少している。夏場の来客数確保が年間を通しての利益確保につながることから、景気はやや悪くなっている。	
	自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・ 前年は9～10月に冬タイヤの新商材発売や値上げの動きがあったことで冬タイヤの動きが良かったが、今年は競合店も含めて前年比80%台と苦戦している。さらに、今年は低価格タイヤの販売量が伸びている。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・ 今年は北海道とは思えないような天候であり、過去40年で経験がないほどの異常気象となっている。そのことが客足にも影響した月であった。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ 地元客の来店が減少している。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・ 酷暑の影響もあり、消費活動が低迷している。8月は地元の祭りがあり、例年であれば年間で屈指の売上となるが、今年は販売量が低下した。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・ 同業他社も含めて、全体的に稼働状況が前年と比べて落ちている。人口が減少していることに加えて、買い控えの動きも影響している。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ お盆期間中の天候不順などの影響から、前年と比較して輸送量が減少した。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・ 天候不順の影響で消費に盛り上がりが見られない。	
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・ 国内客について、個人客、団体客共に来客数が減少している。今夏の不振については、全国的な天候不順の影響も考えられるが、要因が今一つはっきりしない。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・ 4年に1度の大型のイベントがあり、大量の旅客を輸送したにもかかわらず、売上は前年比マイナスであった。日常の輸送量が大きく落ち込んでいることを実感している。
企業動向関連 (北海道)		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 3か月前の5月の販売量は前年比プラス8%であったが、8月の販売量は前年比プラス15%であった。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 北海道内では外国人観光客の増加により、観光地のホテル建設などに活況がみられ、それに伴う家具需要が増加している。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・ 年度計画を上回る受注量が確保できており、工事進捗に伴う出来高も順調に積み上がっている。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 購買量が増加しており、今後の購入計画も好調なことから、景気はやや良くなっている。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・ ベース商材の動きが良くなりだし、仕事量も前年並みに出てきている。これからの時期についても期待が高まる。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 受注が悪い状況は3か月前と変わらない。前年比で5～10%のマイナスで推移している。
		建設業（従業員）	取引先の様子	・ 建設関係各社は最盛期を迎えている。ただし、自社の受注容量を考慮する動きがみられることに加えて、働き方改革の影響もあり、新規受注には消極的になっている。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・ 夏場の繁忙期を迎えて貨物量が増えているものの、人手不足から余計なコストが発生しており、貨物量と利益が比例していない状況にある。

	金融業（従業員）	取引先の様子	・高温、多雨による天候不順の影響が幅広い業種で見られるが、景気を変動させるまでのものではなく、道内景気は3か月前と比べて横ばいでの推移となっている。
	司法書士	取引先の様子	・少子高齢化や大都市一極集中による地方都市の人口減少により、土地取引や建物の建築などの不動産取引が低迷している。
	司法書士	取引先の様子	・例年に比べて不動産の売買、建物の新增改築工事が少ない。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず人員の確保が難しく、受注量を増やせない状況にある。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が前年並みに落ち着いており、ここ2～3か月と同様の状況で推移している。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・先行きの景況感に対して慎重な発言をする取引先が増加している。
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引の成約が減少している。依然として景気回復の兆しがないことに加えて、天候不順により野菜などの価格が上昇していることで家計に余裕が感じられず、高額な土地購入や建物新築などに対する機運が高まってこない。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼が旺盛であり、求人数は増加傾向を維持している。ただし、中小企業においては求人誌に掲載しても応募がないなど、苦戦している。また、当社が3年前から手掛けている外国人大学生のインターンシップについても今夏は前年比で2割増しの状況にあることから、企業の人材ニーズは依然として高いことがうかがえる。販売などの短期間の派遣ニーズも増えているが、労働者派遣法の改正に伴い、派遣前に登録者から受領する書類の回収に時間が掛かるようになっており、求職者の派遣就労の機会損失につながるケースが生じている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・大型店の売上や新車の販売台数などの動きが堅調に推移しており、それに伴い雇用情勢もやや良くなっている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・Web情報も含めて求人広告への反応が鈍く、客先を始め会社の人材確保が厳しさを増している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・中国系だけでなく、タイやベトナムなどの観光客が増加していることで、外国人観光客対応の業界からの募集が増えている。また、医療介護などの求人も堅調であり、合同説明会や紹介などでの採用が増えてきている。ただ、全般的に求人数は減少している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ここ2か月間の求人広告の件数が前年と比較してやや減少している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・全国規模の大手企業については業績が良さそうな雰囲気がある。一方、地場の卸小売業や飲食業については、業績が良いところと悪いところの差がはっきりとしてきている。外国人観光客に対応できている企業は業績も良いようである。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が2か月連続で前年を上回り、月間有効求職者数が6年9か月連続で前年を下回ったことから、有効求人倍率は1.06倍と前年を8年5か月連続で上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月の有効求人倍率は1.14倍であり、前年を0.13ポイント上回り、引き続き高い水準で推移している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・小売業の大口更新求人などにより、有効求人が2か月ぶりに増加し、ほぼ前年並みとなった。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・2019年新卒者の採用に当たって、どこの企業も採用予定枠や採用に係る予算を増やしたままであるが、例年8～9月は学生の動きが止まるため、10月までは企業動向にも学生動向にも変化がみられない。
	*	*	*
	x	-	-